



発行日：平成 28 年 2 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会第7回市民会議を開催しました！

2月9日（火曜日）に第7回市民部会が豊田市職員会館にて開催されました。今回の会議では、これまでの各部会の活動実績、流域連携テーマの活動実績と今後の活動方針について、活発な意見交換を行いました。

日 時：平成 28 年 2 月 9 日（火）18:00～20:00
会議場所：豊田市職員会館 2F 第1会議室
参加者：15名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山・川・海部会の取組み状況報告

■山部会

- 山村再生担い手づくり事例集
・3ヶ年で計64団体を山・川・海部会メンバーが取材し、事例集Ⅰ,Ⅱ,Ⅲとしてとりまとめた。
- 山村ミーティング
・当初目的としていた、きこり祭りに変わるイベントの開催を模索している。
- 森づくりガイドライン
・流域の自治体から森づくりに関する情報収集を行い、共有と意見交換を行った。
- 木づかいガイドライン
・根羽村森林組合がまとめ役となって木づかいライブ・スギダラキャラバンを展開した。

■川部会

- 本川モデル
・護岸の建設や修復工事では、WGの意見が反映され、環境負荷の低減が実現した。
- 家下川モデル
・WGが主導して、家下川に生育する生き物に配慮した改修工事計画を促すことができた。
- 地先モデル
・活動団体にヒアリングとアンケートを行い、専門家リスト（案）を作成した。

■海部会

- ごみ・流木の問題
・山、川部会メンバーが参画し、ごみ・流木調査を実施した。
- 豊かな海の生物調査
・干潟や海底の生き物調査を行い、環境における課題について意見交換を行った。
- 海と人の絆再生
・アンケートを通じて、子どもや保護者の海に対する意識を把握した。
- 干潟・ヨシ原再生
・矢作ダムの砂を活用した干潟造成の試験を実施し、アサリの生息を確認した。



2. 流域連携テーマの進捗状況と今後の活動方針について

■流域連携テーマの進捗状況

- ごみ・流木の問題
・トンボロ干潟や吉良町沖で漂着ごみや海底ごみを把握した。
- 土砂の問題
・矢作ダムの堆積砂を海へ運ぶ「砂の駅」プランについて、実施主体、運搬方法、取組み方法等を検討した。
- 木づかい
・流域ものさしの製作において、流域材の確保と事例集で培われた人脈の活用が話し合われた。

■全体会議の進め方

- ・全体会議の話し合いのポイントについて意見交換を行った。



2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 山・川・海の取組み状況報告

(・意見 ▶ 回答)

- ・森づくりガイドラインの活動成果には流域市村の間伐面積の推移がある。2010年度以降の間伐面積の減少は何を意味するのか。間伐する対象地がなくなったということか。(光岡)
 - ▶ 理由はいくつかあると思うが、最も大きな原因は国の政策転換だと考えられる。そのため、間伐面積の減少は、対象地が無くなったわけではない。(蔵治)

〔国の政策転換(2011)〕
搬出間伐を補助金の対象とし、伐り置き間伐を除外した



〔森林従事者数・施業の手間の問題〕
森林従事者数は横ばいの状況で、搬出間伐は伐り置き間伐の約2倍手間がかかる



間伐面積の減少

※ただし、県の森林環境税による補助金は、伐り置き間伐も対象となる。この補助金が間伐を支えている。

(2) 流域連携テーマの進捗状況と今後の活動方針について

- ・全体会議では、何をテーマとして議論するか。この流域連携テーマを議論の対象にするのか。(光岡)
 - ▶ 矢作川流域圏懇談会は、全体の2/3が終わったわけで、海だけで山、川とつながるのは難しいと感じている。今後1/3は、各部会の活動を続けながら、部会を統合した活動が必要だと思う。設立して9年が近づいているので、まとめを意識した取り組みが必要だ。(高橋)
 - ▶ 今年は山部会と海部会に参加して、私の所属する川部会とは違ったことが行われていると思った。現場をとらえて協議することは良いことだと感じた。川部会は、連携するまでの成果がみえていないのが現状だ。(野田)
- ・これが成果(途中段階を含めて)だということを各部会で明らかにしていくことが重要だ。それに加えて3つの部会合同で何かを作り出す仕組みを検討したい。この話し合いは、今度の全体会議で必要だと思う。(光岡)
- ・この懇談会はたくさんの引き出しができていて、国や市などの行政機関と市民団体がうまくいっているのは、全国的にみても矢作川だけだと思っている。特に山部会に関しては、木の駅プロジェクトや森の健康診断など、全国に胸を張れる内容がたくさんできあがっている。今後は、これらの情報を全員が共有して、全国にPRできればよいと思う。(高橋)
- ・川部会では目玉というものができていない。各テーマが広がりすぎて、どうまとめて良いか分からなくなっている。(菅原)
- ・やはり6年間の積み重ねというのはすごいものだと思う。6年前は右も左も分からず、勝手なことを言い合っていたのに、今では、ここまで辿り着いている。今後は、山と川と海をつなぐ1つのキーワードが必要だと強く思う。(黒田)
- ・川部会しか参加していないので、他の部会にも参加してみたいと思う。(吉川・大濱)
- ・ここまで全体会議の議題について、皆さんのご意見をお聞きました。ここで学識者の蔵治先生にもご意見を伺いたい。
 - ▶ 今日の話し合いを聞いていると、流域圏懇談会が危機的な状況であるという印象を受けた。これまでの6年間には2年目に懇談会崩壊の危機があった。その時は、流域全体を山から海まで見るという2日間のバスツアーを行い、懇親を深め持ち直した。あれ以来、山部会は現場主義を重視してきた。この流域圏懇談会のメインは川部会だと思っている。川部会を盛り上げるために、山部会も海部会も一緒に考える必要がある。とにかく楽しくないと続かないというのが結論だ。(蔵治)
 - ▶ 国においては、国土強靱化計画とは別に、国土形成計画と国土利用計画が次々と作られていて、その中には国土強靱化はいつか破たんすることが明記され、生態系の恵みに依存したしなやかな流域圏やグリーンインフラストラクチャー等のキーワードが並んでいる。この先、どこかで方向転換が生じた時に、我々が最先端に躍り出ると思う。現段階では、PR不足は否めないで、今後は年1回イベントを開催し、それをモチベーションにして次に進むサイクルが必要だ。(蔵治)
- ・流域圏懇談会は市民が主体だと宣言したのが、2年目の全体会議であった。その後、一時期市民はとても元気であったが、今は元気が感じられない。市民の力なしでは流域圏を変えることは不可能だと思う。事務局には、どのようにしたら流域圏懇談会に市民が戻ってくるかについて真剣に考えていただきたい。(黒田)

(3) 振り返り

よかったと思うこと：多くの資料と意見交換になる材料が揃えられていたこと。/参加者に公平に意見を求めたこと。/蔵治先生が資料の内容や市民会議の経緯を詳しく説明してくれたこと。

よくなかったと思うこと：市民の参加者が少なく、過去に発言が多かった人の参加がなかったこと。

全体会議に向けた提案：事前に参加者に対して資料を送信し、あらかじめ内容の理解と意見交換を想定した準備を促す。

質問など：木づかいの中で、今後の活動方針(案)に示された道具(ものさし)をより詳しく紹介いただけるとありがたい。

今後の流域圏懇談会の予定

■第5回全体会議

日時：平成28年2月22日(月) 14:00~16:00



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。

